

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 1月 27日

事業所名 アスラボさばえ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○				
	2	職員の配置数は適切である	○				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		ご家族の送迎で2Fまで上がってくるのが難しい場合は、電話をかけていただき職員が下までお子様と一緒に下り引き渡しを行っている。	事業所が建物の2Fにある。そのためバリアフリーにすることは難しいが、階段には手すりをつけている。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○				
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○				
適切な 支援 の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			支援内容や特性理解のための研修を行っている他、自己研鑽のための研修も行っている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			利用者様や保護者様への聞き取りだけでなく、認知特性についての分析も行い、それをもとに個別支援計画の作成に取り組んでいる。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			認知特性をはかる客観的指標に基づいて評価を行っている。さらに行動チェックリストなども行い、聞き取り側の判断に頼らず子どもの状況の把握が標準化するようになっている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			活動内容は全職員検討を行い立案している。また、土曜日の集団療育は職員が交互にプログラムを作成している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			毎週土曜日は集団療育にて工作や理科実験、感覚統合など楽しめるプログラムを行っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			長期休業中は制作時間のかかる絵画で表現活動を楽しむ他、自分自身で選択し学んでいく探求活動を通し、自己決定感や自己効力感を持てるよう支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			本人の特性に合わせて個別と集団活動を織り交ぜたプログラムを行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			朝礼時、利用児童の活動内容を話しあい職員間で共有している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			終礼時、利用児童の様子や活動内容を報告し職員間で共有している。また、明らかになった課題について次回のような支援を行うのが検討を行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			ケア記録を作成し、それをもとに終礼等で振り返りを行っている。その中で支援内容の課題整理、検討を行っている。	
20	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			主に児発管が参加しているが、学習面に関する事柄の場合は、児発管と学習コーディネータが会議に参加している。	
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			適時おこなっている。また、保護者様を通じて、お便り等で情報を共有している。		

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○		医療的ケア児は受け入れは行ってない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			○		就学前の情報は主に相談支援員さんより情報を得ている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			○		該当する利用者がいない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				連携を行うとともに、必要に応じて助言を受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		コロナ禍のため交流を持っていない。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している			○		自立支援協議会への参加はほとんど行っていない。今後参加できるようにしていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				送迎時や面談時に話を聴く時間を設けている。また、連絡帳ツールを使い保護者の方と情報の共有を図っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○				療育内容を詳しくお伝えをし、ご家庭でも取り組みそうなことについて助言を行っている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				保護者様からご相談があった場合には時間を設け丁寧に支援を行っている。また、保護者様の様子からお話を聴く時間を設けたほうが良いと判断した場合は、こちらからお声かけを行い必要な支援が行えるように対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		感染症予防の観点から保護者同士が交流できる場を設けていなかったが、今後時期をみて保護者同士が連携出来る場を設けていく予定である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				苦情に対する体制については整備を行っており、契約時に丁寧に説明を行っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				連絡帳支援ツールの「保護者との連絡」を使用しお知らせしている。また、ホームページなどで活動内容を公開している。
	35	個人情報に十分注意している	○				個人情報の取り扱いには十分配慮し、個人情報が含まれるものに関しては鍵付きの書庫に保管している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				ルビを振る、写真やイラストなどを用いるなど視覚的に支援を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		コロナ禍ということもあり機会を設けることができていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○				各種マニュアルを作成し、職員はマニュアルに沿って訓練を行っている。保護者様へは契約の際に説明を行うとともに教室の入り口に掲示をしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				半年に1回、避難訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				定期的に事業所内研修を行うほか、WEBなどでも研修を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				研修などを通し職員間で共通認識している。保護者様へは契約時及び支援計画説明時に丁寧に伝えをしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○		おやつ、食事の提供を行っていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				事故発生時の状況を正確かつ簡単にメモできるよう、イラストを用いた記録用紙を設置している。それをもとに事例集を作成し事業所内で検討を行っている。そのほか、事前に危険だと思われる行為や活動についてチェックを行い危険がないように留意している。